

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100552		
法人名	社会福祉法人 白富会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 ひまわり園		
所在地	熊本県熊本市東区長嶺東3丁目3-70番地		
自己評価作成日	令和5年1月5日	評価結果市町村受理日	令和5年4月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和5年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな住宅街の中に位置しており、周囲も気軽に散歩できる環境にあります。施設の近くには小学校もあり、児童の登下校時や運動場での活動時に子供たちの声が聞こえ、元気な声に入居者の笑顔もほころびます。明るく広いスペースで落ち着いた生活が出来ます。ご家族に対しても入居者お一人々のホームでの生活をブログにてお伝えしています。職員の元気が大切にしながら、入居者お一人々に楽しく目標のある生活が継続出来つように努め、笑顔でゆとりのあるケアを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して経年、管理者及びケアマネの変更という過期期にある中で、職員とのコミュニケーションの強や、笑顔あるケアの実践に職員の持つスキルや個性を發揮することで入居者の生活に潤いを与えている。例として初詣の工夫等に現れている。入居者も長年の生活により超高齢化や平均介護度も3.5と重度化傾向にはあるが、入居者があるがままに受け止め、本人の意思を尊重したケアに努めている。コロナ禍により、運営推進会議の対面開催はできていないが、収束を見据えながら再開されることが期待される。また、地域の中これまで築いてきた関係性の新たな局面へ向けた取り組みと共に、入居者の愛犬への思いを家族が叶えてくださるといふ熱い思いも窺われ、家族とともにあるホームとして再始動されることと大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者と一緒に笑顔の絶えない施設づくりを目指す「スマイルライフ」を理念とし、サービスの実施の際には念頭に置いて行動している。	管理者は、入居者と職員が笑い合いながら生活出来るようにと指導し、入居者に寄り添うケアへの取り組みと職員が生き生きとしたケアが入居者も自然と笑いも出るとして、理念として掲げる「スマイルライフ」を実践している。職員会議の中で理念を基に話し合い、笑顔なるケアとなるために職員の個性も考えながら、職員の持つ能力やスキルを発揮できる体制としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス流行以前は、託麻南小で行われる地域行事(社協主催)への参加や子供のボランティア体験を受け入れていたが、現在は実施できていない。	外部との交流する機会はコロナ禍により困難状況にあり、外出イベントも減少したこともあるが、今後は職員の充足により時期や企画書に縛られず、職員と話し合いながら外に出ることで交流促進に繋げる意向である。また、	ホーム周辺には小学校等もあるという社会資源豊かな環境にある。登下校時の子どもたちの声も聞ける場所にあり、地域の社会資源をリサーチし、コロナ感染症以前の様な関係にもどられる事をき対したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や施設に来られた方に対し、認知症ケアでの質問を受けその都度説明しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議自体が書面での報告となっていたため、意見の収集ができていない。利用者の家族からも、施設の運営面についての情報をもっと詳しく聞きたいとの意見があった。	コロナ禍により書面審議若しくは法人代表、施設管理者、職員での話し合い等であり現在は外部からの参加は無い状況である。入居者の現状や行事写真により家族への報告とし、玄関で開示する体制である。今後、地域の方々と連絡を折り合い、協力関係を築きたいとの意向も聞かれ、地域にある事業所として運営推進会議を有効に活用していただきたい。	地域包括支援センターや自治会長、民生員、小学校や保育園等へ参加を呼びかけると良いと思われる。まずは挨拶回りからスタートし、参加を依頼することなど検討頂きたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	人員配置についての相談から、サービス実施における問い合わせなど、必要な際には担当者と必ず連絡を取り、協力関係を構築している。	コロナ感染症の予防対策等はメールにて寄せられる他、ホームから人員配置等の相談や不明な事項を問い合わせている。また、介護保険の更新を代行し、訪問調査に立ち会いながら情報を発信している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、職員会議の際に勉強会のテーマとする事が多く、広く職員間で認識を共有している。身体拘束委員会についても定期的に開催し、実践している。	玄関先等に身体拘束についての指針を掲示し、小規模多機能事業所及びグループホーム合同での勉強会を開催し、居室内を目視で確認して回り(ベッド柵等)、拘束しない環境について検討している。介護する側の都合でケアをしないことを申し合わせ、入居者のやりたいという思いを尊重したケアに努めている。入居者個々の外出傾向の把握や、ずっと部屋での生活で良いかの検討や、制限すること無く、スピーチロックをしないように指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議において話し合う場を持ち、虐待の意味や提供されているサービスが適切かどうか考え、意見交換を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	回数は少なかったが、高齢者の権利擁護について勉強会を開催するなどし、各職員の知識の向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には契約書、重要事項説明書、運営規定を読み合わせ、同意して頂いた後に記名と捺印を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置しており、記入して頂いた内容はスタッフに伝え、改善出来るようにしていると共に、直接希望を言われた場合は、対応できることは即対応する事になっています。	家族には請求書送付時にご意見や要望等がありませんかと促している。コロナ禍の中でラインを通じ、イベントや入居者の状況を発信や意見交換を行っている。家族との接点がタブレットであることや、ラインを通した申し出もあり、コロナ次第では気軽に訪問できるような体制の工夫に期待したい。	家族との交流等も厳しい状況にあり、まずは運営推進会議へ参加してもらうことを検討頂きたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の職員会議にて、検討会や意見の収集を行っています。また、各職員が自由に意見を書き込めるなんでもノートを活用し、日々の意見を取り入れる様にしています。	毎月職員の要望等を聞く機会を作っているが、職員から職員会議で話し合う方が良いとの意見によりノートの活用を中止したことで、職員の発言が多くなってきている。また、業務中に個別に意見等を聞き取りしている。更に管理者・主任・職員との3首面によりシフトへの要望等も上がり、職員が気軽に言える環境作りに取り組む等風通しの良い職場環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年間月単位の変形労働制に変えることで、年間の休日が2日増えた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、主任を中心に定期的な勉強会を行うと共に、安全対策委員会にて、職員から出た日々のヒアリの検証を行い、同時にその職員に書面にてアドバイスを行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルスの流行前は、施設外の研修への参加を行い、他施設職員との交流から、色んな意見を取り入れ、施設運営に活用出来るように対応しています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活背景を知ると共に、傾聴を受容し本人にとって必要不可欠なことを見極め、安心できる関係づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や必要に応じ、日常生活の様子、健康状態の報告を行い、同時にご家族等からの要望を直接伺い、又は、意見箱設置し、入居者様が安心できる環境づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族・主治医と連携を図り、必要としている支援を見極め、本人らしく生活出来るよう支援している。必要に応じ、訪問マッサージや医療機関でのリハビリが受けられるよう対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を基本に考え、ご本人が出来る部分等の見極めを行いながら、積極的に自立に向けた対応に努めています。また、出来ない部分へのケアにも一緒に行いながら対応しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に対し、報告・連絡・相談等を行いながら、ご家族に協力できる部分には力になって頂き、利用者様をご家族と共に支えることが出来ています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚、近隣の知人・友人等の自由な面会又は電話での対応を行い、関係性が継続できるよう支援を行っている。また、各客室には、家族の写真や日々日常で使われていた物を使用されています。	馴染みの場所への外出は困難な状況にあるが、アセスメント時にこれまでの生活歴を把握し、好みなどの情報を職員が共有している。職員のエプロンの繕いに取り組む入居者や、家族から手紙が寄せられたり、お酒が好きな入居者にはノンアルコールビール、花が好きとして飾る等今できることで支援している。職員が工夫した初詣や、正月には家族の協力を得て外出・外泊を叶えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	視覚障害のある方や認知症により意思疎通が困難な方もいらっしゃるので、職員が仲介となり、行事やレク等での交流が図れる場を設けています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所先が施設や病院の場合、情報提供書を作成し、退所後もご家族等から相談があれば対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族から希望や意向は常々尋ね、意向に添えるよう理念に基づきながら検討・対応しています。	職員は入居者との日々の生活の中で、したいことや、たまには飲みたい等が上がっている。長い入居歴によりADLの低下も見られるが、耳元で歌を流す等昔の情報を生かしている。意思疎通や発語困難な状況には、かぞくからの情報をケアに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活背景を知ると共に、ご本人らしい生活が出来よう対応しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り、カンファレンス、記録を通し、情報の共有をしていくと共に、その人に合った対応に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様の状況を把握し、必要なケアを立案しています。又、介護計画のモニタリングは、毎月実施しており、ご家族に相談が必要な内容がある場合は適宜相談し対応をお願いしています。	新たなケアマネジャーは情報を得るため、利用者本人や家族との関わりが重要であると捉え、職員との情報交換をしながらプラン作成に取り組んでいる。毎月担当者やケアマネジャーによるモニタリングにより入居者の状況を確認し、半年毎にプランの継続不可を見極めている。無理をせずに元気に過したいとのニーズには不安無く生活が継続出来るような等具体的な援助内容である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各ご利用者様個別に日々の記録を行うと共に、簡素化した文章ではなく、ポイントが明確に分かりやすいPOS方式を取り入れています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限りご家族の急な申し出や受診対応等、柔軟に行うようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者様と一緒に食材の買い物に出掛けたり、花壇の整備を一緒に行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族とご利用者様とで病院受診される際には、必要に応じ、前もって情報提供書の作成を行い、直接電話での報告や受診時に持参して頂いています。	受診は家族と合う機会の一つとして捉え、家族に受診をお願いし、直接主治医からの状況を聞いてもらう事としている。現在は希望のかかりつけ医に家族による受診と、希望等がなければ協力医による訪問診療としている。歯科は必要時に訪問による治療が行われ、食後の歯磨きは必要に応じて支援しているが、可能な限り出来る所は行ってもらうよう声をかけている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常時、情報交換をしており看護職員が休みの時も必要な時は電話連絡にて指示を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は面会を行い、その際に担当Nsとの情報交換を行っています。退院の際には、入院先との情報交換や退院後の調整を行っています。また入院時は、その都度サマリーを作成し提出しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期への支援を見据え、ご家族と相談を行い、関係機関との調整や往診への協力を行っています。	入居時にホームの指針をもとに説明し、意向などを聞き取りしているが、現時点ではわからないと答えられる方が殆どであり、重度化された時点で改めて説明し、主治医の変更や家族との同意を交わしている。100歳を過ぎられた方もおられ、年に1回程度は連絡している。また、入居者に急変もあり得るとして、状況を見間ながら家族に意向を確認しているが、確かな返答には至らない現状のようである。	医療行為が出来ないことを明確にし、急変時対応としての話し合いを行い救急搬送としている。終末期支援に関する研修会も実施したとしており取組が期待される。今後も日頃の関わりを大切に、本人や家族の思いに沿った支援の継続に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間の事業計画に毎月の勉強会を決め、行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練を行っています。又、防災委員会を設け、年間の訓練を実施しています。また、訓練の際には、併設からの応援体制を整えています。	年2回防災委員会が中心となって火災訓練を実施しており、2回目を今月中頃予定している。ホームでは火元をあかさない訓練など、職員の意識を高める工夫をしており、訓練後は職員から反省点を聞き、今後に活かすこととしている。日々の安全管理の一つとして、コンセントの埃もチェックしている。自然災害の訓練についてはまだなされていない。	今後は自然災害についても机上を含め訓練の機会を持つ事が必要と思われる。備蓄は準備しているが適切な量であるかなど課題もあり、リストを作成し必要な品を供えていかれる事を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	昔されていたお仕事や、ご家族の関係など、その方にあった言葉かけや安心できる声掛けを心がけています。	入居者への呼称はさん付けで対応し、言葉使いも本人や周囲にも不快にならないよう注意を払っている。一人ひとりの意向を確認し対応する事を共有しており、管理者は職員の都合にならないよう、入居者のされたいお手伝い事など、否定せず見守りで一緒に行う事なども日頃から伝えている。おしゃれや身だしなみの支援として、毎朝の着替えは一緒に希望を聞きながら選択しており、髪のカットは感染症対策を施し定期的な訪問カットの支援や美容室へ出かけられた方もおられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の意向を確認し対応することに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな日課はありますが、その時の気分や体調、ペースを尊重しながら支援を行っています。(特に食事や入浴)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日一緒に着る服をコーディネートしています。又、外出の際の鏡台を出口付近に設置し活用して頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け等を手伝って頂いたり、片付けの時には食器の拭き取りを一緒にやっています。	ご飯のみホームで炊き、他の副菜などは調理済みのものを活用し、ミキサーやキザミ、お粥食など個々の嚥下力に応じて提供している。こぼしがちな方へは安易にエプロンの使用はせず、タオルで対応し、エプロンの場合も首に負担が無いよう配慮している。赤飯の日やクリスマスバイキング会などイベント食の日は特に喜ばれており、おやつは水分補給を目的としお茶や紅茶、カフェオレなども用意されている。入居者が調理に関わる機会は無いが、普段から食器拭きや干し柿づくりでは皮むきから紐で結ぶ・日光に干すの一連の作業に取り組まれた方もおられる。	今後はホームでの食事やおやつ作りの機会も持ちたいとしており、入居者の楽しみが増すと思われる。取組に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を確認しており、飲み物に関しては、ご本人の飲み物を聞いて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合った口腔ケアをスタッフで共有しており、毎食後には口腔内の清潔に努めています。また、個人の義歯に関し、週2回の洗浄(ポリデント)を行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各ご利用者様ごとの排尿チェック表を利用し、定時誘導以外にも、その方のパターンを把握し、状況に応じて誘導と付き添いを行っている。	個々の排泄パターンを把握し、声掛け・誘導、必要な介助を行っている。日中はトイレでの排泄を支援しており、100歳を越された方もトイレを使用されている。パットを併用しながらリハビリパンツをで過ごされる方が殆どであるが、尿意が難しい方はオムツを使用されている。夜間のみポータブルトイレを使用される方もおられ、配置など個々に応じて検討している。共有のトイレや居室など臭気が無いよう、職員は掃除や換気に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の確認を行うと共に、利用者様の状況に応じ、乳製品を取り入れたりしています。運動に関しては、その利用者様が出来る内容を取り入れています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日中ではありませんが、ご利用者様の意向や状況をふまえ、入浴時間を柔軟に対応しています。	入浴は日中に入居者の意向を聞きながら週2～3回支援している。浴室の暖簾を見て入浴を拒まれる方もあり、暖簾が見えないよう後方にずらしておくなど配慮している。好みのシャンプー類の持参や季節湯(菖蒲・ゆず)支援等、楽しみとなるよう努めている。	脱衣所スペースが広いことから冬場の温度管理や広さに落ち着かないなども考えらえることから、カーテンでの仕切りなど検討いただきたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日によって利用者様の入眠される時間が違う為その都度、利用者様の決定にて入眠を促したり、その日に眠くない時は一緒に話しながらテレビを見たりし、落ち着かれるまで一緒に過ごしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルに服薬リストを綴じており、薬の服薬目的や副作用について各スタッフが理解できる様に工夫しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後の食器拭き等、利用者様自身での活動に対し対応しています。又、コミュニケーションの中から、ご利用者様の意向も取り入れながら、楽しみやレクリエーション等の気分転換の時間を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	各利用者様の状態に応じて施設周囲を付き添い散歩を行ったり、ベランダでおやつを食べたりし、利用者様の家族の方に協力をして頂き外出、外泊等の気分転換への協力をして頂いています。	感染症の影響により以前のような外出は控えているが、ベランダで阿蘇の山々や、飛行機の飛ぶ様子を見ながらの日光浴は努めて取り組むようにしている。また、感染症対策を施し近隣スーパーへの買い物や家族の協力を得て、遅めの正月帰省(日帰り・泊まり)が実現している。ドライブを兼ねた神社への初詣は出来なかったが、ホーム内で初詣の雰囲気を出しおみくじを用意するなど、職員の工夫が聞かれた。	コロナ禍で外出イベントが減ったことは残念であり、新年度はこのことを目標に掲げ、企画書による外出だけではなく、天候や人員配置が合えばその日に外出を行って行きたいとしており、今後の取り組みが期待される。また、近隣を散歩した際、草花を採集しホーム内に飾るなども楽しみにつながると思われる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人での金銭管理は困難な方ばかりなので、施設にて管理しており、園外行事等の際にご利用者の買い物を選んで頂き、スタッフが買い物の対応をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望により、家族に連絡出来るよう、対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは天井が高いため圧迫感がなく、ベランダは南向きで開放感があります。近くには小学校もあり、元気な子供たちの声が聞こえる環境です。	1階の玄関には季節の花苗や観葉植物の鉢が来訪者を迎えている。入居者が日中の殆どを過ごすリビング兼食堂は高い天井で開放感があり、食事の席は介護状況や相性なども考慮されている。イベント時にはテーブルを囲んで皆が和気あいあいと楽しめるよう工夫している。時にはカラオケを楽しむ方や、音楽が好きだった方には耳元で歌曲をリビングや居室でも流すことで安心されている。ソファに座りテレビを見たり、ベランダに置かれたベンチでは小学生の声を聞きながら過ごす等地域の環境を生かしている。	季節に応じた壁面や入居者の塗り絵の作品が掲示されており、家族の訪問が可能になれば、ゆっくりそれらの作品を見ていただく機会があると、入居者も喜ばれることと思われる。コロナ感染対策の徹底や収束に向かうならば、家族もホーム内に入る事ができるよう検討頂きたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にはソファや椅子を設置し、ベランダにはベンチを置いて好きな時に好きな場所を利用できる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファ、タンス、写真など自宅にあった馴染みの物を自由に持ち込んで安心出来る環境の整備をして頂いている。	居室は安心して過ごせるよう、自宅で使用されていた馴染みの品など自由に持ち込んで欲しいと依頼している。どの部屋も明るい居室には、必要な衣類や小物の他、テレビを持ち込まれた方は好きな番組(相撲など)を見られている。家族の写真や思い出の写真を掲示し、好きな花(てっぽうユリ)が飾られた部屋も見られた。コロナ禍以前は家族が面会時に、居室内の片づけをされていたが、現在は職員が中心に行っている。	面会を控えている家族にとって居室内の状況は気になる点と思われる。職員による掃除や衣替え、ベランダでの布団干しなどホームの取組を家族へ伝える事で安心につながると思われる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各トイレ、通路、浴室等に手すりを設置し、すでにバリアフリーになっています。		